

川崎市立川崎病院・総合内科

病院名・診療科名・研修プログラム名

川崎市立川崎病院・総合内科

研修プログラム名：川崎市立川崎病院内科専門医プログラム

住所・ホームページアドレス・連絡先メールアドレス

〒210-0013 神奈川県川崎市川崎区新川通1-2-1

連絡先：岡野 裕（総合内科部長） yutakaokano@mac.com

病院見学の申し込みも受け付けます。

<https://sites.google.com/site/kmhmedicine/>

指導医名・記載者名

岡野 裕（おかの ゆたか、総合内科部長）

科の目標としている医師像

当院の内科専攻医研修終了後は、病棟医として、内科救急医として、かつ、地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）としての能力をもち、さらに、知識や技能だけではなく、本院の理念「病気でなく病人を診る心を大切に、安全安心で質の高い医療を実践し、地域社会の発展に貢献する」が目標としている医師像です。また、将来臓器疾患専門医を目指す医師も、その礎としてGeneral Physicianの素養を身につけるべきと考えます。

スタッフの人数

内科スタッフ：28人（男性24人、女性4人）

後期研修医の人数

25人（男性16人、女性9人）

当直

4～5回、当直明けは帰宅可

診療科独自の病床数

病床数の定めはなく、内科の入院患者数は200～240人。

勉強会やカンファレンスの開催曜日・時間とその概要

内科グランドカンファレンス（火曜日午後5時30分～）

内科症例検討会（木曜日午前8時～）

総合内科カンファレンス（金曜日午後6時～）

新入院症例カンファレンス（月～金曜日午前8時～）

具体的な研修・業務内容の紹介

「内科1科」のまとまりと専門性の両立が大きな特徴

当院の内科は、循環器、呼吸器、神経、消化器、血液、感染症、リウマチ膠原病、腎臓、内分泌糖尿病の各専門医が内科部長の統括のもとで「内科1科」として診療しています。専攻医は総合内科に所属し、常時各分野の指導医の下、主体的に診療に当たります。

入院研修ではあえてローテーションはせず、診療の継続性を重視

内科各分野をローテーションすることはせず、診療の継続性と内科全般の診療を常に意識し多くの問題点を抽出し解決する能力を研修します。内科に入院してくる患者を主担当医として診療に当たります。入院患者は主に急性期疾患で、集中治療を必要とする内科疾患のICUへの入院患者を含みます。専攻医5名程度でチームを作り、各チームにはアテンドを配置し、アテンドから基本的な病棟管理の指導を受けつつ、議論を通して疑問点・問題点を明確化し、専門医の指導へと繋がります。

外来診療研修（当直業務を含む）

平日午後および夜間・休日の救急外来で、内科のウォークイン患者の診療（いわゆる1次、2次救急）を行います。卒後4年目以降は、総合内科外来（新患対応）および自らの外来診療枠を持つことにより、主に外来で経験する疾患の診療と入院患者の退院後の継続診療を行います。

救急救命センター（ER）研修（3か月程度）

救急科指導医の下、救急救命センター診療チームの一員として診療します。2次および3次の内科救急だけではなく、外傷・小手術を含めた救急診療全般を研修します。

在宅医療・緩和医療研修（オプション、3か月程度）

川崎市立井田病院で在宅医療・癌終末期医療を、悠翔会在宅クリニック川崎で在宅医療を研修します。

検査研修（希望に応じて選択可）

週2コマの各種検査研修ができます。上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡、気管支鏡、超音波検査（腹部・心臓）、心臓カテーテル、脳波、筋電図、放射線診断科での読影、病理、その他が可能です。

研修終了後の主な進路

総合内科での後期研修を終了後、選考を経て当院内科の常勤医になることが可能です。慶應義塾大学、北里大学、東邦大学、東京女子医科大学などの医局との強い繋がりがあります。

その他・自由記載

入院患者各分野別の症例数（2016年実績）

消化器：982、循環器：866、内分泌・代謝：178、腎臓：123、呼吸器：1278、血液：123、神経：454、リウマチ膠原病・アレルギー：100、感染症：604、その他：157、合計4,865。

研修環境

図書室：あり、インターネット：あり、女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室等：あり、保育施設等の利用：あり、臨床研究支援室：あり、

待遇

身分：川崎市非常勤嘱託職員、給与（月額）・賞与：451,800円（D3）～651,800円（D5）・賞与なし、当直代：30,000円（宿直もしくは休日の日直1回）、健康保険・労働災害補償・年金：あり、レジデントハウス：月額29,050円（予定）の自己負担で提供。